

学習指導案 略案様式（特別の教科 道徳を除く）

2 年		1 組	指導者	〇〇〇〇	教科等	数学科
単元	単元名等		場合の数と確立			
	目標		評価規準	※どちらかを選択し、 <u>で囲ってください。</u>		
	知識及び技能		知識・技能	○場合の数を基にして得られる確率の必要性和意味を理解することができるようにする。 【D（2）ア（ア）】 ○簡単な場合について確率を求めることができるようにする。 【D（2）ア（イ）】		
	思考力、判断力、表現力等		思考・判断・表現	○同様に確からしいことに着目し、場合の数を基にして得られる確率の求め方を考察することができるようにする。 【D（2）イ（ア）】 ◆確率を用いて不確定な事象を捉えて考察し説明することができるようにする。 【D（2）イ（イ）】		
	学びに向かう力 人間性等		主体的に学習に取り組む態度	○場合の数を基に得られる確率のよさを実感して粘り強く考え、不確定な事象の起こりやすさについて学んだことを生活や学習に生かそうとするようにする。		
	単元の学習展開（全6時間）					
	導入	□単元の学習計画を確認し、学習の見通しを持つ。 ・2枚の硬貨を投げる場面において、3通りの面の出方について疑問を持つ。 ・多数回の試行によって得られる確率と関連付けて、場合の数を元に得られる確率の必要性和意味を理解する。				
	展開	□数学的活動を通じて確率について理解し、不確定な事象を捉え考察し表現する。 ・確率の性質を理解し、余事象の考え方をを使って確率を求める。 ・並べ方（順列）や組み合わせ方による確率を求める。 ・不確定の事象に関する問題を、確率を用いて考察しその結果を説明する。				
	終末	□単元全体を振り返り、確率について分かったことやもっと知りたいことをまとめる。 ・本章の振り返りと確かめの問題を解く。 ・「確率」と日常生活や社会との関係に興味を持つ。				
	本時 （5／全6時間）	ねらい	くじを2人で引くときの引く順番と当たりやすさの関係について、先に引いた場合と後から引いた場合の当たる確率を比較することを通して、説明できるようにする。 （下線部…単元の評価規準との関連【◆思・判・表 ワークシートの記述】）			
学習過程		「めあて」 「『くじ引きは公平か？』について説明しよう」 『課題』 『くじを引く順番と当たりやすさにはどんな関係があるだろうか』				
		『まとめ』 『最初にひく人も2番目にひく人もどちらも当たる確率は2／5になるので、くじを引く順番と当たりやすさには関係がない』 「振り返り」の視点 ・説明を考えるとときにどんなことを意識したか				
の努力を要する生徒に対する状況		【予想されるつまづき】	【必要な支援・手立て】			
	・自分の考えを整理して表現することができない。	・「説明の基本形」を提示して確認させる。				